

日本では、私のことを、年金の専門家（の 1 人）として理解している人が、少なくありません。各種のテレビや新聞・雑誌に私が登壇したのは、もっぱら年金の専門研究者（の 1 人）として、でした。

その私に、年金問題の全体像を「わかり易く」かつ「簡潔に」解説してくれたのは、厚生省のキャリア官僚であった河（かわ）幹夫さんでした。

今から 40 年ほど前の夏、厚生省の若手キャリア官僚を対象にして、私は「年金の経済的側面」を数回にわたって講義しました。河幹夫さんは、その講義の出席者の 1 人でした。その講義および、その後における各種のやりとりを通じて、河幹夫さんと親しくなった次第です。

河幹夫さんは、日本の年金問題に関するかぎり、私にとっては、頭脳明晰な、最高の教師でした。